

平成30年度 第4回 純正会地域包括ケア推進委員会 開催しました

地域包括ケアを推進していくために、『各部門の職種の役割を知る』をテーマに前回より講義を行っています。今回は、MSWの役割について学びました。ゲストとして中川区東部いきいき支援センターの山岡さん、みなと・なかがわ介護支援センターの刑部さんが参加しました。

MSWってどんな仕事しているの？ MSWの役割とは？

小牧第一病院のMSWの講義ですが、MSWの3つの役割
 ①患者・家族の相談窓口
 ②院外の関係者との連絡窓口
 ③院内の多職種連携の役割、退院調整看護師、医療と介護の連携シートについてわかりやすく講義をして頂きました。

今回、在宅側から多くの質問があり「入院患者だけでなく、外来の患者の相談にも乗ってくれるのか？」とさらに詳しく仕事の役割を確認する質問に対して「病院によりけりだとは思いますが、カルテを見ながら答えられる程度です。また、まったく関わっていない人だと、その場で対応できず一度調べてからでないと対応できない」と回答頂きました。

また、ケアマネジャーからは「連携のしにくいケアマネジャーはどのような人か？」と質問をすると「退院が決まったら連絡をくださいと言って放置する人や、連絡なしで突然来られて情報を教えてくださいますという人には困る」と回答を頂き、ケアマネジャー側が普段の業務を振り返る場面がありました。

改正後の動きに関する質問として「介護保険法改正後、在宅側との連携で何か変わったか？」の質問に対して「在宅側から入院する事になった患者様の情報提供が増えてきた」と回答がありました

その回答に対して、ゲスト参加されたケアマネジャーより「中川区でのケアマネジャーと医療機関の相談員との交流会では、介護保険改正後、3日以内に情報提供書を医療機関に送る事が推奨されているが、参加された医療機関からは3日以内に送られては早すぎて困ると言われたが、どうすればいいのだろうか？」との質問に対して、「入院後3日以内だと、医療機関によっては退院調整の担当が決まっておらず、どの部署に情報提供書を送っていいのか困るからだと思う。小牧第一市民病院としては当日に持ってきてもらえると、とても助かる」と回答がありました。

中川区の名古屋西病院の岡島さんは、「名古屋西病院は3日以内に送られても特に困ることはない」と回答がありました。同じ中川区の医療機

関でも意見が違う事がわかりゲスト参加された中川区東部いきいき支援センターの方には、地域で統一ができるように、今回の意見を部署に持ち帰って頂く事になりました。

在宅側にとって、医療機関との連携をする際に、最初に関わって頂くのが相談員さんなので、今回、MSWの役割を知る事で、今後ますます連携がしやすくなるのではないかと期待しています。



2018/07/20



事例検討『一人暮らしの高齢者の

今後の方向性で在宅？施設？』

今回の事例提供者は居宅介護支援事業所太陽の加藤さん。右半身まひで一人暮らしのAさん（79歳）は自宅で車いすを利用し自立した生活を送っていました。しかし2ヶ月前の交通事故をきっかけに自宅内で転倒し怪我をする事が増え、ADLが低下してしまい、周囲が心配していました。

家族は別の区にいる長女と、他市にいたる長男だけです。それぞれ家庭があり、関わる事が難しく通院のみ関わっている状態でした。地域では同じ市営住宅の民生委員や住人との関りがあり、夜間転倒した際にAさんが助けの電話を入ると、それぞれが助けられていました。

現状に対して担当の加藤さんは、「本人は家で生活していきたいと言っているが、現状に不安も感じている。今後の方向性は在宅か施設どちらにしたいだろうか？」と悩んでおり今回事例検討にあげてもらいました。

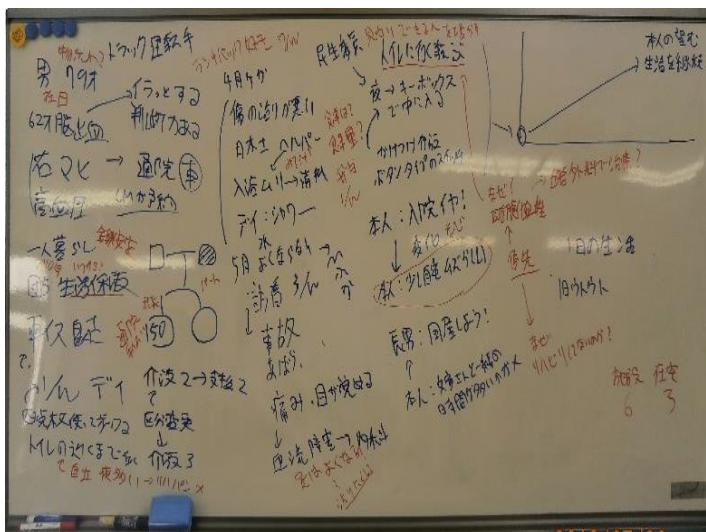
質疑応答では在宅側より「家族の力をもっと借りる事はできないのか？」の質問に対して「それぞれ、お子さん達は仕事をしているので難しい」との回答。

医療職より「転倒が続いておりADLが落ちてきている原因は？」の質問に対して、「転倒されているので硬膜下血腫の可能性があると思う。」との解答。また、「食事の状況についてはどうなっているのか？」に対して「配食サービスが週3から週1にいつの間にか減っていた。また、いつも同じような物を食べており水分もあまり摂れていない。今のところ体重減少はない」との事。

MSWより「在宅と施設を悩まれているが、足の治療を優先するか？それとも治療をせずに施設を選択するのか？どちらの方向性なのか？」の質問に対しては、「現状、本人も日常生活に不安を感じているので治療と、施設入所を並行して検討している」との事

質疑応答後、今回のケースで在宅生活継続ができるかどうか検討したが、「この状況では在宅は選択できない。そもそもこのような状況で在宅生活ができていた事が凄い」と、「今の食事の内容では危険性があり難しいと思う」、「本人が不安を感じているのなら本人を安心させるために施設にした方がいいと思う」、「傷の状況が気になるの

で、とりあえず治療を優先した方がいいと思う」、「本人が危険性を感じていることは間違いないと思う。硬膜下血腫は歩行状態で確認するよ」とりハビリの体制を強化すべき。もっと思っ。「との各委員より意見をもらいました。事例提供者の加藤さんは「皆さんの意見を聞いて、改めて現状のままでは、今の家では生活はできないと思う。今後、足を治療しながら施設を検討していきます」と方向性を決める事ができました。



2部会

今回の2部会は、ケアマネジャーに同行し、同居家族がいる利用者のモニタリング風景を見てもらいました。一人暮らしの家と違い、本人の想いと、家族の想いに違いがあるので、バランスよく傾聴する事を大事にして頂きます。さて頂きました。

今後も2部会は毎回開催させて頂きます。在宅での患者様、利用者様がどう過ごされているのか、ケアマネジャーがどう対応をしているのかご興味のある方は、いつでもご参加ください。担当ケアマネジャーが車で送迎いたします。

次回の予定

日付	行事	場所
8月17日 13時半	訪問看護の役割	東洋病院